

女性医師エッセイ

亡き父を思い出して

厚狭郡 寺井 佳子



桜が開花する時期になると、父と過ごした3カ月間が鮮明に思い出されます。今から24年前に、父は大腸がんのため、53歳で亡くなりました。私が26歳の時、結婚して、お正月に実家に帰った時は、父は元気そうで、初めて年末の宝くじが10万円当たったと大喜びし、今年は良い事がありそうだと言って家族全員に大盤振る舞いしていました。その日から、わずか2週間後、父が具合が悪くなって倒れたので北九州市の病院に入院したと母から連絡が入りました。それからすぐ週末の大雪の日に父が入院している病院に行きました。主治医の先生から腹部CT写真を見せていただきましたが、肝臓全体に多数の腫瘍があり、その画像を見た瞬間、目の前が真っ暗になり、父はもうだめかもしれないという思いが湧き上がってきて涙があふれてしまい、父の病室で父の顔をまともに見ることはできませんでした。母はフルタイムの仕事があり、強い腰痛もあるため、父の病院に行くことは困難であったため、すぐに私が勤務していた病院に転院してもらいました。その日の大腸内視鏡検査で、肝臓のすぐ下の横行結腸に悪性度の高い低分化型の大腸がん（進行がん）が認められ、大腸の中はかなり出血していました。また、大腸がんが肝臓に多発転移し、ステージIVの状態でした。

末期がんであるため、とても悩みましたが、父には病名告知はできませんでした。その日の夜から、勤務をしながら、3カ月間毎日、父の病室に寝泊まりしました。当直も父の病室に泊まりながら行きました。スポーツが大好きな父でしたが、貧血や痛みにより、歩くことが困難になってきま

したので、トイレ歩行には介助が必要な状態でした。父は、シャイで頑固な所があり、看護師さんから体をふいてもらったり、痛み止めの座薬を入れたりするのも拒否するため、すべて私が行いました。私もまだ若かったため、仕事と父の看病に一生懸命で、睡眠不足の状態でしたが、疲れもなかったです。父が入院して1カ月くらいは、父といろいろな昔の話をすることができました。父は、5人兄弟の末っ子で、母親は体が弱く、かなり年をとって生んだ子供であるため、両親からはほったらかしにされて、幼少期はとても寂しい思いをして過ごしたつらかったそうです。大学進学を希望していましたが、親から諦めるように言われ、大学進学が出来なかったため、父は、私が小さい頃、市役所に勤務しながら夜間の大学に通い、勉強していました。また、父が30歳のころ、地元の小学校に少年野球チームを立ち上げ、指導者として20年余り頑張ってきました。土曜日や日曜日は、野球の練習の指導のため、ほとんど家に居たことはなく、母が私に「土日は出て行ってばかり」と愚痴を言っていたことを思い出しました。家にも少年野球の子どもたちがよく遊びに来ていました。昔から、父は、「少年野球団の卒業生はきちんと挨拶ができるし不良になった子はいないし、みんな真面目に働いている。」と自慢げに言っていました。また父は、青少年の健全な育成に力を入れ、保護司の仕事も行い、どんなに疲れていても家でゆっくり休んでいる姿は見たことはありませんでした。そんな父は、入院してから1カ月後、食事がほとんど取れなくなり、中心静脈からの栄養となり、最後の1か月間は全身衰弱し、

がんと壮絶な戦いでした。桜を見に行きたい、早く退院して家に帰りたい、くろちゃん（実家で飼っていた犬）に会いたいと繰り返し言うようになり、つらい毎日だったと思います。がんの痛みは強く、なぜこんなに苦しまなければならないのかと、とても悩んだことが思い出されます。当時私が勤務していた山口労災病院の消化器内科の指導医の先生方には、治療のことからあらゆる面でご指導して頂き、心から感謝いたしております。私が父の主治医になれて、父の最後を看取ることができたことが、その後の医師としての頑張りにつながっています。どんなにつらいことがあっても、乗り切ることができ、がんや難病で苦しんでおられる患者さんやご家族の気持ちも理解できるようになりましたし、相談に応じることもできるようになりました。

父が亡くなって1年後、スポーツ少年団の方々から地元の小学校のグラウンドで父を偲び、野球の追悼試合を行うため来てくださいという招待状が届きました。私も試合に出させていただきます、関係者の方々から、父への感謝のあいさつを頂いたときは、感激し涙があふれました。父は短い人生だったけれど、父なりに一生懸命に毎日を生きてきたんだなあと思いました。私は最後の3カ月間、父と過ごすことができ、その間それなりの覚悟が自分の中でできましたが、震災や交通事故などで突然家族を亡くした方々は、ショックはかなり大

きいでしょうし、胸が痛くなります。

父に末期がんであると言えなかったため、父は自分が亡くなってからのことは（最近、終活と呼ばれていますが）、何の準備もできなかった状態だったので、母も姉も私も葬儀などの知識がなく、葬儀やその後のいろいろな手続きがとても大変でした。父のタンスの整理をして見つかったのは、へそくりではなく、2人の女性からのラブレターでした。父が捨てられずとっておいたようで、それを見て、母が不機嫌になったので、私が、「不倫したのではないからいいじゃない」と言ったのを思い出しました。

私は、医師になって26年目になりましたが、本当にあっという間でした。いつの間にか50歳を過ぎてしまいました。今までは全く病気をせず、元気でしたので休まずに勤務できたことは幸せだったと思います。自分自身も今後、がんや認知症になりたくない願っているものの未来はわかりません。今まで一度も受けたことがないがん検診を受けないといけなあとと思っています。医師としてあとどれくらい仕事ができるかわかりませんが、頑張っていきたいという気持ちです。そして、ある時期になったら終活の準備もしていかねばと思っています。



医業継承・医療連携
医師転職支援システム

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

DtoDは後継者でお悩みの
開業医を支援するシステムです。
まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613
受付時間 9:00~18:00(平日)



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社
www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店 / 山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL(083)974-0341 FAX(083)974-0342
本社 / 福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-ユ-010064